

～10000kmのかなた、コンコードでの出会い～

町民代表 岩本 厚子

このたびは海外研修という貴重な機会をいただきありがとうございました。約10000kmかなたのそれも全くお会いしたこともない方のお宅にホームステイさせていただくという経験が如何にかけがえのないものであったかと今深く感じています。

「ほんの短い間のそして最初で最後かもしれない人々との出会いをしっかりと感じてきたい。」というのが今回の私のこの旅にたいする強い想いでした。

～ホストファミリーと～

この12日間の研修の旅を思い起こす時、一番に思い浮かんでくるのはホストファミリーのクリスやビルと過ごした時間や会話の数々です。

毎日ご自宅の周辺を散歩されるというクリスがある朝お気に入りの散歩コースを案内してくれました。ちょうど色づいた木々の中、色とり

どりの秋の落ち葉と鳥たちのさえずりを楽しみながら散策。さえずりはブルージェイ（アオカケス）やカーディナル（ショウジョウコウカンチョウ）だと教えていただきました。朝のさわやかな冷たい空気と静寂の中、紅葉の木々に包まれた趣のある家々を眺め、いろいろなお話を伺いながらのんびりと散歩を楽しんだことを思い出します。冬は真っ白な雪の上を歩くスキーで散歩を楽しまれるとのことでした。

自宅での絵画教室を参観させていただいたこともありました。その日は小学校低学年の子供達の6人くらいのクラスでした。中世のヨーロッパのコスチュームを着た婦人像の写生。クリスは出来上がった一人ひとりの作品をじっくりと講評して

いしていました。小さな子供にもきちっとした言葉で対応しておられたのが印象的でした。被写体の歴史的なバックグラウンドまでもしっかり説明してから描かせるのだそうです。今回、ご要望で日本から「アンパンマン」の人形（かなり大きいものです。）を持っていきました。「アンパンマンは顔がなんとバン（丸いパン）でできていて正義のために悪者と戦うだけではなく貧



ビル、タラ、クリス



クリスの絵画教室

しい人々やお腹を空かした子供たちに自分の体の一部を与えるという最も直接的で崇高な自己犠牲の形を表現した素晴らしいアニメだ。是非子供たちにそのストーリーを語ってアンパンマンの人形を写生させたい。」ということだったので。アンパンマンはまだアメリカでは出版も放映もされていないのですが、クリスはどうやって知ったのでしょうか。



クリスの弾き語り

ご主人のビルが出張で不在の夜、ふたりで兼ねてからメールで計画していた、ギターの「さくらさくらセッション・・・?」をしました。プレゼントした「荒城の月」などのギターアレンジの楽譜を弾いたり「America The beautiful」をしみじみとした低音で弾き語りして下さったのが忘れられません。

10月7日の日曜日にボストンハーフマラソンが開催され、夫妻の息子のカールがこのマラソンに参加するためにはるばるネブラスカからやって来ました。ボストンの娘さんも集合して皆で応援に行きました。家族の一大イベントに大集合して応援し喜びを我がことのように分かち合う温



ボストンハーフマラソン

かいご家族の風景でした。また終盤の最後部集団ではかなりお年を召した方々や、補助走者と走る視力障害の方、体に障害のある方々、車椅子のランナー達が満場の拍手の中駆け抜けていく姿に胸が熱くなったのを思い出します。様々な年代層、あらゆる障害を持った人々、アジア系アラブ系アフリカ系など多様な人種のランナー達。しっかりと市民の間に浸透したボストンマラソンのキャパシティの大きさを感じました。



救急動物病院の
ジョイス獣医師

ご夫婦はまた、日々の食事にも非常に気を使っておられ、朝食はオートミールを豆乳で煮てそこにドライの杏やイチジクなどを混ぜていただきます。夜も炭水化物や肉はあまり摂らず野菜中心。ギー（インドの発酵バター・最も健康的なバター）をたっぷり塗っていただいたホクホク

に焼いたスイートポテトは圧巻でした。ご主人がめくばせしながらおっしゃるには家の中では妻に従うけれど一歩家を出るとお腹いっぱい肉や脂っこいものを召し上がるとのこと。体形的にも「やはり」というところもあり皆で大笑いしたのを思い出します。



ビル 50 年前と今！

3日目の夜は JAPAN NIGHT ということで私が料理を担当。メニューは、いなり寿司、巻き寿司、切り干し大根と高野豆腐の煮物、ねぎとワカメの味噌汁。食前酒はビルが用意してくださった純米吟醸。前年にホームステイされた宮田さんの渋いぐい飲みでいただき、食後は「白い恋人」を茶菓子に、持参した茶器でにわか作りの盆手前のお抹茶を喜んでいただきました。冷や汗ものの出来でしたが、かろうじて味噌汁が好評。クリスは3杯も御代わりしてくれました。

コンコードを去る日の前日、ビルが趣味の鉄道模型を披露してくれました。お宅の地下室一面に鉄橋や踏み切り、シグナル、貨物列車、特急列車などなど。それは見事なものです。蒸気機関車は警笛を鳴らすたびにほんとうに蒸気が出るのには驚きました。長年少しずつ増やしていったパーツの一つ一つを説明するビルはまるで少年のようでした。

～コンコード・七飯15周年～

10月6日、コンコード・七飯の姉妹都市提携15周年の記念式典がタウンハウスで厳かに行われ、コンコード美術協会で記念の夕食会が催されました。CCHS のメンバーはじめ関係者が多数参加され盛大で楽しい歓談の場となりました。同席された以前七飯町に国際交流員として来られていた方のご両親は七飯滞在中の娘さんが七飯での生活を楽しみ、



ビル、クリス、ダイアナ

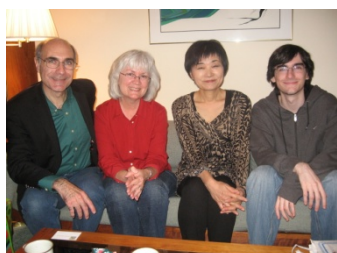
人々の中で大きく成長されたと話しておられました。お嬢さんは現在札幌に住んでおられるそうです。またコンコードの教育長のダイアナさんは2009年にCCHS七飯訪問団の団長として随行して来られた時のことを語られ、生徒達を温かく受け入れられた七飯の皆さんに大変感謝しておられました。同席の方々は皆さん口々に15年のこの交流の素晴らしさを語っておられたのが印象的でした。

この会場の美術家協会の会員でもあるクリスはこの夕食会の段取りをオーガナイズしており、何日も前からケータリングの業者選びからメニュー選びなど仔細にわたり準備に関わってきました。夕食会の後、参加者がお帰りになり、皆でテーブルやキッチンでの最終始末をやり終えた後、関係者の間から“WE MADE IT!”と歓声があがりました。皆さんそれぞれにお忙しい日々の中でこのイベントの準備に大きな力を注いでこられたに違いありません。その声に思わず感激したのを覚えています。こういう方々たちの陰の力、支えがあつての15年であることを実感した一瞬でもありました。

～懐かしい再会～



グレンと



ジョンとご両親

我が家にホームステイしてくださったジョン、グレン、ダイアナさんと再会することができました。ジョンは今年の4月にコンコード高校サイファイクラブ訪問団の一員として来日。今はボストンの大学で寮生活。ちょうど試験の最中でしたが急遽コンコードに帰りご両親と一緒に私のホームステイ先に愛犬を連れて会いに来てくれました。ご両親曰く少々引っ込み思案なジョン君ですが七飯での経験、ホストファザーとのギターのセッションなどがとても楽しく、七飯の滞在は彼の一生の思い出になるでしょうと言ってくださいました。グレンは2010年の4月にカーライル高校ブラスバンドの一員として来日。CCHSのカフェテリアでの“バーベキューパーティ”に試験中にも関わらず駆けつけてくれました。

コネティカットの大学ではコンピューターサイエンスと“サククス”を専攻しているとのこと。ホストファザーと毎晩ギターを弾きながら歌ったこと、七飯で皆でカラオケに行ったことなどが忘れられないとのこと。持参したその時の映像や写真を一緒に懐かしく見ました。ダイアナは2009年に訪問団のリーダーとして来られました。事前にメールでお会いできることを確認はしていましたが15周年のレセプションでお会いできた時にはほんとうにうれしく、懐かしい思いがしました。教育長という重要なお立場で、常にエネルギッシュで明るく、レセプションの時もいろいろな方々に紹介して下さりたくさんの方とお話する機会を作ってくださいました。七飯の温泉と一緒に入り背中を流し合ったことがいい思い出だとのこと。毎日でも入りたいとおっしゃっていました。今度またいらした時には雪渓を眺めながらの露天風呂にご案内することを約束。

～研修を終えて～

ホストファミリーのビルとクリス、息子のカールと娘のタラ、再会することのできたダイアナ、ジョン、グレン、交流にかかわってくださった皆さんのコンコードの方々、そして細やかな配慮で献身的にサポートして下さった現地の日本人の方々。10000kmものかなたで出会うことのできた、かけがえのないの方々です。温かいおもてなしありがとうございました。多少のトラブルにも見舞われた今回の旅でしたが、役場の方々の機転と采配、そ

して素晴らしいメンバーの皆様のおかげで忘れることのできない楽しいものとなりました。皆様大変お世話になりました。

幸運にも15周年という記念すべき節目に立ち合わせていただき感謝いたします。今後もコンコードの子供達のホームステイを通して「小さな交流」を楽しませていただきたいと思います。



ボストンの街角

